

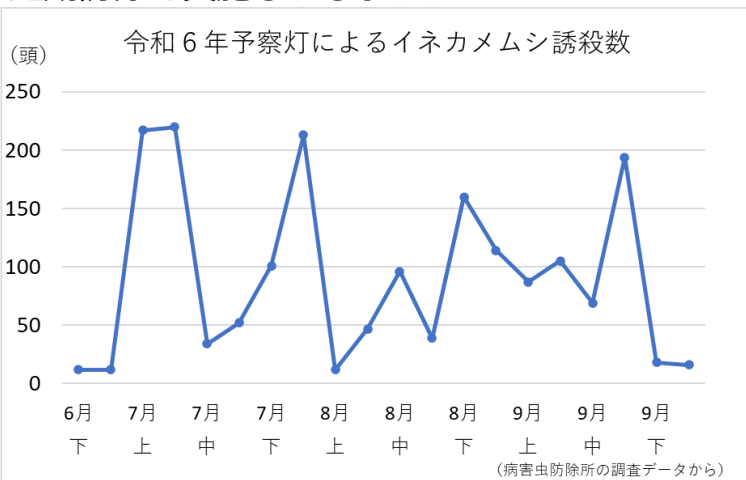
イネカメムシに注意

適期防除を実施しましょう！

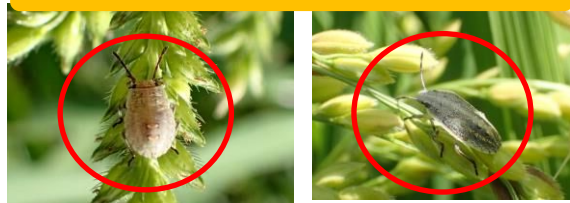
各地でイネカメムシが発生しています。昨年の発生経過から、今後9月中旬まで発生量が増加する可能性があります。

昨年発生していない地域の水田にも発生しているため、ほ場内や周辺の発生状況をよく確認しましょう。特に幼虫は体が小さく見つけにくいので、注意深く観察します。

不稔や斑点米の発生を防ぐために、**出穂期～登熟初中期の2回の薬剤散布が基本**です。適期防除を実施しましょう。



幼虫は成虫と見た目が異なるため注意！



イネカメムシの生育過程



薬剤散布時期

品種	4月				5月				6月				7月			8月			9月	
	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	上	中
コシヒカリ	田植												1回目防除			2回目防除				
					田植															
彩のきずな					田植															
									田植											
彩のかがやき					田植															
									田植											

1回目防除



出穂期～穂揃期の防除 （不稔の防止）

穂揃期までに必ず薬剤散布を行います。
粒剤では散布を数日早めます。

防除のタイミング

ほ場全体の茎のうち約4割～8割が出穂した頃

2回目防除



登熟初中期の防除 （斑点米の防止）

出穂期の8～14日後に薬剤散布を行います。
粒剤では散布を数日早めます。

防除のタイミング

穂が上部から傾き始めた頃

出穂後3～4週間はイネカメムシの加害リスクがあります。イネカメムシの発生状況に応じて、上記以外の時期にも追加で薬剤散布を行いましょう。

商品名 (有効成分)	殺虫剤分類 (IRACコード)	散布方法	倍数・散布量	使用回数・時期
キラップフロアブル (エチプロール)	2B	散布	1,000～2,000倍	収穫14日前まで 2回以内*1
		無人航空機による散布	8～16倍	
スタークル液剤10 (ジノテフラン)	4A	散布	1,000倍	収穫7日前まで 3回以内*2
		無人航空機による散布	8倍	
エクシードフロアブル (スルホキサフロル)	4C	散布	2,000倍	収穫7日前まで 3回以内
		無人航空機による散布	16倍	
トレボン乳剤 (エトフェンプロックス)	3A	散布	2,000倍	収穫14日前まで 3回以内
キラップ粒剤 (エチプロール)	2B	湛水散布	3kg/10a	収穫14日前まで 2回以内*1
スタークル粒剤 アルバリン粒剤 (ジノテフラン)	4A	散布	3kg/10a	収穫7日前まで 3回以内*2

*1「キラップフロアブル」「キラップ粒剤」の共通の有効成分（エチプロール）の使用回数は2回以内であるため、使用回数に注意し、連用を避ける。

*2「スタークル液剤10」「スタークル粒剤」「アルバリン粒剤」はそれぞれの使用回数は3回以内だが、共通の有効成分（ジノテフラン）の使用回数は4回以内であるため、使用回数に注意。また同一成分であるため、連用は避ける。

・農薬はラベルに記載の適用作物、使用時期、使用方法等を十分確認の上、最終有効期限までに使用する。

・農薬の使用に際しては次のホームページで最新情報を確認する。農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>

周辺に住宅地等がある場合は、薬剤散布の前に散布時期、場所、農薬名等を周知しましょう

稲株の早期すき込みについて

イネカメムシは越冬に向けて養分を蓄えるため、9月から10月に盛んに吸汁します。なかでも再生株（ひこばえ）の穂は栄養価の高い餌資源となります。

昨年、収穫後のひこばえにおいて10月中旬頃まで発生が確認されました。

収穫後の再生株をそのまま残すと餌の供給源となり、翌年の個体数が増加する恐れがあるため、収穫後は速やかにすき込みましょう。

早期すき込みは、イネカメムシ対策の他にも様々な効果があります。

① 有機物の分解が促進されるため、酸欠による初期生育の遅れが起きにくくなる。

② ヒメトビウンカ、ミナミアオカメムシ、フタオビコヤガ等の害虫の生育場所を無くすことで翌年の害虫の発生を抑制する。



ひこばえを吸汁するイネカメムシ(左) とミナミアオカメムシ (右)

イネカメムシに関する相談は、お近くの県農林振興センターまたは発行元に御連絡ください。連絡先は右のQRコードから確認をお願いします。

